

創立



現静岡知事の川勝氏が目指すべき海辺の姿について講演を行った

新たな海辺文化の創造～日本の目指すべき文化と海辺の姿～シンポジウム

2006年3月18日
日本工業倶楽部会館(東京都千代田区)
国際日本文化研究センター教授・川勝平太氏(現静岡岡知事)の基調講演や、「日本の目指すべき文化」と「海辺の姿」の関係について有識者のパネルディスカッションを行った。



水辺の事故ゼロを目指すため、一次救命処置の講習会を開催



おだいばビーチ初のビーチスポーツイベントとなった

2003 BEACH SPORTS in ODAIBA

2003年5月17・18日
お台場海浜公園おだいばビーチ(東京都港区)
2002年、国土交通省港湾局にて「新たな海辺の文化創造研究会」の小委員会として「ビーチスポーツ研究会」が発足。研究会の提案を受け、2003年5月にビーチスポーツを中心とした海辺の周年利用の促進を図る啓蒙実験イベント「第1回ビーチスポーツ in ODAIBA」を開催した。(2003年～2005年まで実施)



アックパレックなゴールが売りのビーチサッカー

第1回ビーチライフ in 新舞子～名古屋港ニッポン! どつまんなが裸足の文化交流～

2006年4月30日
新舞子マリナーズ(愛知県知多市)
発足当初は日本ビーチバレー連盟、TEAM遊佐、JAPANビーチサッカーネットワーク、健康体操イベイス、ビーチ協会らで主催していたが、現在は知多市が中心になって開催されている。波静かな人工浜で心地よい海風に当たりながら10年以上にわたって交流を図ってきた。※現在も継続中



トップ選手たちによるビーチバレーボールスクールを開催

第1回ビーチライフ in お台場

2006年5月5日
お台場海浜公園おだいばビーチ(東京都港区)
ビーチスポーツを中心にイベントを開催してきたが、「スポーツのみならず、環境、健康、教育、癒し、食、伝統など様々な分野において可能性秘めているビーチ」という観点からイベント名を変更、「ビーチライフ in シリーズ」とし、全国展開をスタート。(2006年～2013年まで実施)



ビーチクリーンにも積極的に取り組んだ

ビーチライフふれあいフェスティバル in 阿字ヶ浦／阿字ヶ浦・磯崎里浜づくり実行委員会発足

2006年9月2日
阿字ヶ浦海水浴場(茨城県ひたちなか市)
「里浜」を形成するため、浜辺の周年利用を図るソフトを受け皿づくりを支援する「阿字ヶ浦・磯崎里浜づくり実行委員会」が発足。地元の人に愛されるきれいなビーチ作りを創造していく「ビーチライフふれあいフェスティバル in 阿字ヶ浦」をスタートさせた。※現在も継続中



秋晴れのもと、多くの参加者が集まった

歩きたくなる東京の海辺ウォーキング

2006年11月3日お台場(東京都港区)
東京港の華やかな観光資源として知られ、海辺を有効に活用した癒し空間も併せ持っている「お台場」。およそ8kmのウォーキングコースを歩きながらPR企画として実施された。お台場海浜公園をスタート、第3会場から浅草海浜公園、海風公園、船の科学館から青海海浜公園というコースを歩いた。

地方へ発信



木場弘子氏(キヌスター)、藤野真紀子氏(食育料理研究家)らが登壇した

はだして子育てシンポジウム

2008年3月21日
名古屋電気文化会館(愛知県名古屋市)
親子が一緒になって遊ぶ空間が減少している現代社会において、ビーチは「はだし」になって開放的に自由に遊べる空間。今後、日本においても子育てにかかせない場所のひとつとしてビーチが認知され、海辺の地域活性化、子どもの健全育成の場を目指すシンポジウムを開催した。



世界初となるビーチスポーツの祭典を視察した

アジアビーチゲームズ 2008を視察

2008年10月18日～26日
インドネシア・バリ
アジア初、世界初となるビーチスポーツに特化した国際ビーチスポーツ総合大会「アジアビーチゲームズ」が開催された。日本ビーチ文化振興協会では、日本の海辺利用と活用できる大型ビーチスポーツイベントの招致を企業・自治体へ提案できるよう視察を行った。大会設置を学び様々なビーチスポーツを観戦した。



浅川海岸で海辺の生物と戯れる参加者たち

第1回ビーチライフ in 浅川

2008年9月7日
浅川海岸(岡山県玉野市)
岡山県や玉野市の有志団体が中心となり、実行委員会を創設。ビーチバレーボール、ビーチサッカー、ライフセービング、ビーチランなどのビーチスポーツで浅川海岸が盛り上がった。(2008年、2009年と実施)



当時ビーチバレーボール日本代表だった「朝日健太郎」等身大分割ゴキウ箱をイベントで設置

海辺を守ろう! 運動活動スタート

海辺の浸食やゴミ問題に「島国日本の大切な海辺、通年集える環境を創ろう!」という志から、ビーチを使用するアスリートを中心に「海辺を守ろう!」運動を2008年からスタート。海辺で最も多く出るとのゴミのひとつであるペットボトルを再利用するため、キャップを再加工してベンチをつくり、地域へ還元する取り組みを実施した。※現在も継続中(現名称:ブルービーチプロジェクト)



ビーチバレーボール日本代表・スタッフの激励会を行った

朝日健太郎・白鳥勝浩組 佐伯美香・楠原千秋組、北京オリンピック出場

2008年、中国の北京で開催された北京オリンピックにビーチバレーボール日本代表として朝日・白鳥組、佐伯・楠原組が出場した。朝日・白鳥組は、ビーチバレーボール日本男子初となる決勝トーナメントに進出し、9位という好成績を取った。



7年間、餅が浜を盛り上げてきた最大のイベントとなった

別府餅ヶ浜里浜ビーチオープン記念 別府ポトフェスタ2010

2010年8月1日
餅ヶ浜里浜ビーチ(大分県別府市)
別府餅ヶ浜ビーチのオープンを記念してコンサート・釣り大会・魚のつかみ取りをはじめ、ビーチバレーボール・ビーチフラッグス・ビーチラン競歩大会を実施。別府地域の海辺を活用した更なる活性化を目指し、観光誘致資源としておいに活用できる海辺文化の定着が狙いだ。ビーチバレーボール大会は100チームを超すほど九州1の人気のある大会となった。



年々、一般公募が増加している人気イベントとなった

メッセージアート展、スタート

2010年8月28-29日
お台場海浜公園おだいばビーチ(東京都港区)
海に囲まれた島国・日本の海辺は、人間にとって大切な事を多く語り、体感できる貴重な資源。日本のビーチを世界に発信することの一環から、「芸術を中心としたビーチの活用」を主軸に「メッセージアート展」を企画。ビーチをテーマにした絵や写真、書などTシャツに表現し、ビーチの価値を発信してきた。※現在も継続中

事業 定着へ

2011

2010

2009

2008

2007

2006

2005

2004

2003

2002

港区立小学校PTA ビーチフェスタ

2011年9月25日
お台場海浜公園おだいばビーチ(東京都港区)
東京都港区の小学校19校が一室に集まり、港区にビーチがあることの認識、はだしになることの啓蒙を目的にビーチフェスタを実施。第1回は観光庁交流事業として被災地いわき市の小学校も参加することとなり、児童1,000人が参加するイベントとなった。(2011年～2016年まで実施)



ビーチ相撲は子どもたちから人気のコンテンツだった

東日本大震災 岩手県山田町へ救済活動

2011年3月11日に発生した東日本大震災の災害援助活動に遊佐雅美理事が携わった。同年4月に岩手県下閉伊郡山田町において、行方不明者の捜索に参加。町役場に届いた物資の仕分けや炊き出しを行った。



壊滅状態の海辺で捜索活動のサポートを行った

第1回ビーチライフ in 呉

2009年5月10日
かがる浜海水浴場(広島県呉市)
広島県内初となるビーチライフイベントではビーチバレーボール女子トップアスリートのエキシビジョンマッチ「海辺を守ろう!」カップやビーチスポーツ体験を開催。浅尾美和、西堀健美、浦田聖子、遊佐雅美というメッセンジャーたちと地元議員による「海辺環境トークショー」など開催した。



美しい瀬戸内海を一望できる、かがる浜海水浴場

第1回ビーチライフ in 北九州

2009年10月10日～12日
門司区西海岸特設ビーチ(福岡県北九州市)
北九州港開港120周年を迎え、港の役割や海辺のすばらしさを感じてもらおうと「身近な港らしい海辺再発見」をテーマにした記念事業。門司区西海岸の特設ビーチでビーチバレーのエキシビジョンマッチや各種ビーチスポーツを体験できるイベントを開催し仮設ビーチコート約1ヵ月間設置した。



九州で初めて開催したビーチライフイベントとなった

日本ビーチ相撲連盟、発足

「国技である相撲をはだしになれる環境を活かして日本の海辺でどんとん普及してゆきます」と願って活動をスタート。連盟の代表には、元幕内力士である玉海力剛、顧問には日本相撲協会理事・北の湖敏高氏が就任。日本ビーチバレーボール連盟会長・川合俊一氏が発起人代表として会見で登壇した。



代表には玉海力剛氏(中央)が就任して活動をスタート

川崎マリエン内に「ビーチスポーツ場」オープン

川崎マリエン内にビーチバレーボールの公式戦が開催できるビーチ施設がオープン。コート2面(現在コート4面)の広さには黒髪島(山口県)の砕砂約900トンを使用した。日本ビーチ文化振興協会が監修を務め、ビーチスポーツに適した砂の研究、開発を進め、施設内に敷いた。



現在では11島のビーチのメカになっている川崎マリエン

第1回ビーチライフ in 新潟

2007年10月13日
日和田山浜海水浴場(新潟県新潟市)
日本海沿岸の砂浜海岸でも、四季を通じて海辺を楽しむことのできる周年利用の機運を根付かせるため、社会実験として新潟港西海岸地区において「第1回ビーチライフ in 新潟」を開催。ビーチバレーボール4人制大会、ビーチサッカー、ビーチヨガ、海辺の図書館などのイベントを実施した。※現在も継続中



海風をうけながら本が読める海辺の図書館

里浜里山育成交流「遊ぼう! みんなの里浜DE」

2007年9月22日
阿字ヶ浦海岸、日立建機土木工場
里浜で遊ぼう! =海は夏だけのものじゃない!と願い、山っ子を「海辺」に招待して浜っ子との交流を行った。海と山、それぞれの良さを知ってもらい、ふる里の良さを知ることによって愛郷心を養う交流会となった。



日立建機土木工場を見学する海っ子たち

第1回ビーチライフ in 酒田

2007年9月17日
大浜海岸(山形県酒田市)
酒田港における「水が育む新しい浜まち文化の創造」を推進するため、ビーチを活用したスポーツやビーチライフイベントを開催。新たな賑わい空間の創出を図るとともに、酒田港内にある大浜海岸の存在とその活用方法を広く知ってもらうためのイベントとなった。(2007年、2016年～2018年(のちの酒田ビッグビーチフェスタ)まで実施)



東北の海辺を和太鼓のパフォーマンスで盛り上げた

第1回ビーチライフ in 元氣能登

2007年9月9日
能登島マリナーズ海浜公園海水浴場(石川県七尾市)
石川県七尾市の七尾湾を塞ぐ形で浮かぶ島・能登島を舞台に北陸初となるビーチライフを開催。石川県、七尾市の有志団体と企業が協賛。元氣いっぱい笑顔が能登島にはじけた。(2007年、2008年(2008年はビーチライフ in 能登七尾)として実施)



緑に囲まれたマリナーズ海浜公園で体を動かす参加者たち

はだしのエキスパート養成講習会

2007年3月21日
新舞子マリナーズ(愛知県知多市)
ビーチライフを実践するために、リーダーになって促進する「はだしのエキスパート」。ビーチに関心のある有志を対象に、ビーチ利用やそれを用いた地域活性化方策について知識を深め、環境づくりを進めていく「ひと」を養成する講習会を開催した。



講師を務めた元ビーチバレーボール日本代表の徳野涼子

新潟復興支援チャリティイベント「GENKI STEP JUMP」

2005年1月28日
ミノシモモーターズホール(東京都品川区)
新潟県中越地震(2004年10月23日発生)の復興支援としてチャリティイベントを開催。ビーチスポーツアスリートのトークライブ、歌手の中村あゆみさんのライブやチャリティお楽しみ抽選会を実施した。



トークライブで熱唱した歌手の中村あゆみさん

新潟みなとトンネル 海岸道路開通イベント「にいがた夢海岸フェスティバル2005」

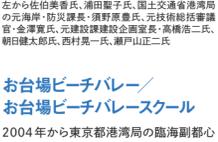
2005年7月23日
日和田山浜海水浴場(新潟県新潟市)
新潟みなとトンネルと海岸の市道(海岸道路)の開通を記念して「にいがた夢海岸フェスティバル」を開催。トンネルや周辺地域の交通アクセスの利便性が増え、新潟西海岸へより多くの人が訪れることを願って作られた。



ステージにて遊佐雅美、佐伯美香のトークショー

「NPO法人日本ビーチ文化振興協会」設立

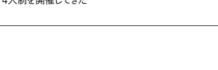
創設から2年が経った2004年、海辺文化の振興、発展に対応すべく「特定非営利活動法人日本ビーチ文化振興協会」を設立した。初代理事長は瀬戸山正二(元日本ビーチバレーボール連盟理事長)。



左から佐伯美香氏、浦田聖子氏、国土交通省港湾局の元海浜・防災課長・須野康豊氏、元技術総括審議官・金澤直氏、元建設総務企画室長・高橋浩二氏、朝日健太郎氏、西村真一氏、瀬戸山正二氏

お台場ビーチバレー／お台場ビーチバレースクール

2004年から東京都港湾局の臨海副都心地域賑わい創出の社会実験として始まった「お台場ビーチバレー」。お台場ビーチの周年利用を促進し、誰でも参加できるビーチバレーボール大会及びスクールを開催。お台場ビーチの活性化を目的に活動。※現在も継続中



4月から11月までの週末、ビーチバレーボール2人制、4人制を開催してきた

はだしのあゆみ PART 1

この20年間、私たちが日本のビーチを踏みしめて作られたはだしの足跡は、しっかり残されている。PART1では、2003年の実験イベントから2011年の東日本大震災の年までを振り返る。